

第4次岩倉市総合計画 基本施策評価シート

【A】基本施策の総括的評価

章	第4章 快適で利便性の高い魅力あるまち			節	第1節 交通対策					責任者	所属	秘書企画課	
基本施策	交通対策			総合計画書記載ページ	P132-135					氏名	伊藤 新治		
施策がめざす 将来の姿	●鉄道やバスの利便性が向上し、だれもが利用しやすい交通環境が整っています。			基本施策 の実施状況・成果 〔総括的評価〕	・バス等の利便性の向上では、高齢者、障がい者及び子育て世代の医療機関等への移動を支援してきたデマンド型乗合タクシーに代えて令和元年10月からふれ愛タクシーでの移動支援を行うこととし、乗降場所が原則制限されない等で利用者の利便性が向上した。 ・人にやさしい移動環境の整備では、岩倉中学校の多目的トイレへの改修や渡り廊下等へのスロープ設置、令和元年度にしゅん工した、はなのき広場のトイレには、出入口にスロープや手摺りを設けてバリアフリー化を図った。 ・跨線橋の整備による東西交通の円滑化では、平成29年3月に跨線橋の供用を開始したことにより、都市計画道路北島藤島線の全線が開通し、市南部地域における東西交通の円滑化のみならず、都市間ネットワークが構築できた。								
	●歩行者や自転車のためのバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が進み、だれもが移動しやすいと感じています。												
目標値	基本成果指標			単位	基準値		現状値			目標値	算出根拠		
	電車・バスなどの公共交通の利便性に満足している市民の割合			%	年度	基準値	H27	H28	H29	H30		R1	R2
	電車・バスなどの公共交通の利便性に満足している市民の割合			%	H25	79.1	-	74.3	73.8	79.6	-	80.0	・市民意向調査、市民アンケートによる

【B】単位施策・個別施策についての評価

単位施策の名称	単位施策の成果指標					個別施策の実施状況と課題			今後の取組及び方向性	評価
	指標名	基準年度及び基準値	実績値 H30	実績値 R1	目標値 R2	実施内容及び評価理由		積み残し課題（新たな課題）		
個別施策の名称	個別施策の内容									
(1) 鉄道の利便性の向上	岩倉駅周辺駐輪場の放置自転車撤去台数	565台(H26)	462台	451台	450台	【指標数値の分析】 ・岩倉駅周辺駐輪場の放置自転車撤去台数については、放置自転車の整理と撤去により、放置自転車の撤去台数の減少に努めることができた。 ・岩倉駅周辺駐輪場の整備台数については、平成28年度に45台分の整備をして以降、具体的な検討に至っていない状況。				○
	岩倉駅周辺駐輪場の整備台数	2,241台(H26)	2,286台	2286台	2,300台					
① 名鉄犬山線の輸送サービスの向上及び駅施設の整備促進	輸送サービスの向上及び駅施設の利便性や安全性向上のため、尾北地区広域交通網対策連絡協議会等を通じて、駅施設のバリアフリー化や駅舎改良などの実現に向けて関係機関へ要請していきます。					石仏駅東側の改札口の設置のため、市で用地取得を行い、令和2年度末までの東側駅舎整備、駅構内のバリアフリー化に向けて、相互に予算を計上し、共通理解のもと、事業実施に向けて詳細な協議を進めることができている。		石仏駅東側駅舎の整備が遅れている。	令和2年度中に石仏駅のバリアフリー化が完了するように、名古屋鉄道と協議しながら進めていく。	○
② 岩倉駅東駅前周辺の交通の円滑化	岩倉駅前へのアクセス性向上と交通の円滑化を図るため、都市計画道路桜通線及び江南岩倉線の整備を推進します。					都市計画道路桜通線は平成26年4月に愛知県知事より都市計画事業認可を受けて事業に着手し、用地買収率は令和元年度末時点で約55% (1,120.19㎡) であり事業進捗を図ることができた。 都市計画道路江南岩倉線については、愛知県と事業手法について協議を行っている。		都市計画道路江南岩倉線については、現時点では事業着手の見通しが立っていない状況である。	両路線とも円滑な事業推進を図るために、関係権利者をはじめ住民の気運を高める。 都市計画道路江南岩倉線については、愛知県と事業手法を検討する。	○
③ 駅周辺での駐輪場の確保及び利用促進	岩倉駅周辺の駐輪場の利用が一部施設に偏在していることから、市営駐輪場の有料化などによる適正な利用促進策や、利用状況に応じてオートバイ等を含めた新たな駐輪場の確保を検討します。また、駐輪場における放置自転車の整理と撤去により施設の活用促進を図ります。					既存の駐輪場が効率・効果的に利用されるように、放置自転車の整理と撤去を行った。		駐輪場の利用が一部施設に偏在している。 市営駐輪場の有料化やオートバイ等を含めた新たな駐輪場の確保に向けた検討が必要である。	引き続き、駐輪場の確保に向けた取組を進めていく。	○
(2) バス等の利便性の向上	路線バスの1日の運行本数	162本(H26)	142本	142本	170本	【指標数値の分析】 ・路線バスの1日の運行本数については横ばいである。 ・路線バスの運行本数に対して満足している市民の割合については、アンケート未実施。				○
	路線バスの運行本数に対して満足している市民の割合	73.4%(H26)	87.4%	-	78.0%					
① 民間路線バスの維持・充実	民間路線バスの維持・充実のため、尾北地区広域交通網対策連絡協議会等を通じて、バス路線の拡充・新設などを関係機関へ要請していきます。					尾北地区広域交通網対策連絡協議会を通じて、九日市場線の延長について、名鉄バスに対し要望を行っている。 また、民間路線バスの維持・充実のためには市民が利用することが大切であるため広報紙で公共交通特集を組み、路線バスの利用を呼びかけた。		平成30年度の名鉄バスへのヒアリングの結果、九日市場線の延長には大きな課題があることが明らかとなった。	バス路線の拡充・新設を行政の財政的支援なしに実現するのは難しいが、引き続き、名鉄バスと協議を進めながら他の方法も含めて検討する。	○

第4次岩倉市総合計画 基本施策評価シート

単位施策の名称	単位施策の成果指標					個別施策の実施状況と課題		今後の取組及び方向性	評価	
	指標名	基準年度及び基準値	実績値 H30	実績値 R1	目標値 R2	実施内容及び評価理由	積み残し課題（新たな課題）			
個別施策の名称	個別施策の内容									
② 高齢社会に対応した総合交通対策の実現	高齢者や体の不自由な人及び子育て世代等の社会参加を促進するため、デマンド型乗合タクシーの利用促進を図るとともに、高齢社会に対応した交通対策を実現していきます。					令和元年10月からは平成25年度から運行してきたデマンド型乗合タクシーに代わり岩倉市ふれ愛タクシーの助成を開始した。事業開始から6か月の実績で、乗車件数はデマンド型乗合タクシーの2倍に増えたが、必要な経費は半分程度になっており、費用を抑えながらも市民が利用しやすい事業となった。		今後の利用者の声と利用者数の推移を見守り、必要に応じて改善していく必要がある。	引き続き、高齢者や体の不自由な人及び子育て世代等の社会参加を促進するため、高齢社会に対応した交通対策を実現していく。	○
(3) 人にやさしい移動環境の整備	子どもや高齢者にとって安全に徒歩や自転車以外出できるまちだと思える市民の割合	32.7% (H26)	-	-	32.0%	【指標数値の分析】 ・子どもや高齢者にとって安全に徒歩や自転車以外出できるまちだと思える市民の割合については、アンケート未実施。			○	
① 歩行空間のバリアフリー化等の推進	だれもが安全・快適に利用できる歩行空間を創出するため、人にやさしい街づくり計画等に基づき、歩道部の段差解消や点字ブロックの設置などのバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入を進めます。					新たに整備を行っている都市計画道路においては、「岩倉市移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める条例」等に基づき歩道の整備や計画、設計を行っている。 都市計画道路北島藤島線及び岩倉西春線の天保橋において、基準による歩道整備が完了している。		新規の都市計画道路以外では、費用的な面もあり歩道の段差の解消や点字ブロックの設置などの事業は進んでいない。	引き続き、新規整備路線については、歩行空間のバリアフリー化を進めていく。	○
② 公共施設のバリアフリー化等の推進	人にやさしい街づくり計画等に基づき、バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入により、だれもが安心して利用できる公共施設の整備に努めます。					公共施設の整備にあたっては、「岩倉市人にやさしい街づくり計画」とともに平成22年度に作成した公共施設整備の設計・施工上の技術的基準に基づき整備を行っている。 岩倉中学校の多目的トイレへの改修や渡り廊下等へのスロープ設置、令和元年度にしゅん工した、はなのき広場のトイレには、出入口にスロープや手摺りを設けてバリアフリー化を図った。		公共施設については、施設管理者において計画的に整備を進める必要がある。	引き続き、公共施設の改修等の際に、バリアフリー化を進めていく。	○
(4) 跨線橋の整備による東西交通の円滑化	都市計画道路北島藤島線整備率	63.3% (H26)	100%	100%	100.0%	【指標数値の分析】 ・都市計画道路北島藤島線整備率については、目標達成。			◎	
① 跨線橋の整備による東西交通の円滑化	市内東西交通のより一層の円滑化をめざし、市南部を東西に横断する都市計画道路北島藤島線の道路高架整備を推進します。					跨線橋の完成により都市計画道路北島藤島線の全線が開通し、本市南部地域における東西交通の円滑化のみならず、都市間ネットワークが構築できている。		なし。	事業完了。	◎